

村瀬太乙 むらせ たいえつ 舊大山藩儒。享和二年七月七日美濃國生れ、明治十
 四年七月歿（八〇三一八一）。講書齋（藜・藜と修下）、字太乙、幼名外
 太郎、通稱泰一、泰一郎。號太乙堂、太乙散人、太乙老人、太乙老仙、
 放屁先生、海園、村瀬太一、村瀬泰乙、泰乙、濃山散人、白雪、翠仙、
 藜太一、藜太乙、藜太乙等。賴山陽既年の門人。業成つて名古屋に於
 いて書を講ず。天保末年大山城主の聘に應じ、名古屋の學堂で教授。
 明治二年大山に移り藩學に錫した。書畫にも秀れ、殊に書は在世留時
 人争つてこれを求めたといふ。

著書 『太乙堂詩鈔』（龍奈巖校、明治十一年五月二十三日刻成、愛知
 ・龍奈巖藏）。

七百多の著書の遺存。此は池田賢三氏所蔵
 情無別白あり 橋 紅葉月林

龍奈巖